

安楽寺だより

令和3年(2021)夏 No.42号

しょうじむじょう によらい と
生死無常 のことわり、くはしく如来 の説きおかせおはしまし

そうろ そうろ
て候 ふうへは、おどろきおぼしめすべからず候 ふう

しんらんしょうにんごしょうそく
「親鸞聖人御消息」より

だんだんと夏の気配を感じる季節になり、装いも涼しい夏服へとかわってきましたね。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

新型コロナワクチンの接種が始まり、周りでも受けられる方が増えてきておられますね。少し、張り詰めていた緊張もほぐれるような思いの一方で、今まさに闘病されている方がたくさんおられます。命がけで救おうとしてくださる医療関係者の方々には頭が下がる思いです。

さて、京都にあります、ビハーラ本願寺という老人ホームでお勤めになられている僧侶の方に、昔こんな話を聞きました。

「今日お休みになる前に、あなたの傍にいる人に『おやすみなさい。また、明日会えるといいね』朝起きたら、『おはよう。今日も会えてよかったね。』と、ぜひ言うてみてください。

きっと恥ずかしくてよう言わんだろうけれども、一回だけでも言ってみてほしい。もし遠くに住まれてるんやったら、電話した時に言ってみてほしい。そうしたら、毎日こうして会えることが、当たり前でないんやったらなあと考えさせられます。」

お釈迦様は、私たちのいのちは、「生死無常」、諸行無常のいのちであることをお説きになりました。人生の終わりは、年齢関係なく、誰しも等しく訪れるものであります。なにも順番があるわけではありません。いのちあるものには

必ず終わりがある、無常のいのちであります。今日寝て、明日の朝目覚めることは、決して当たり前のことではないのですね。訪れる日々が当たり前でないことに気づかされる時、私たちは生かされている喜びを感じるのではないのでしょうか。

石川県の念仏者であった藤原鉄乗さんは次のような言葉を残されています。

「いつまでも生きていたいと、百歳まで生きていても、その人は若死である。いつ死んでもいいと、今日一日を喜んで生きる人は、いつ死んでもいのちをまっとうした人である。」

私たちが普段交わす挨拶の中でも、今日会えた喜び、幸せを感じることが出来ます。

「おやすみ、また明日会えるといいね。」「おはよう、また会えてよかったね。」

一日一日を「ありがとう、おかげさまで」と喜ばせていただく、お念仏の人生を一緒に歩ませていただきましょう。

南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。

合掌

白蓮

